

令和6年度福井県立南越特別支援学校スクールプラン

福井県教育委員会

「一人一人の個性が輝く、ふ
くいの未来を担う人づくり」

(福井県教育振興基本
計画の基本理念)

校訓 元気に やさしく 輝いて

<目指す学校像>
○児童生徒の多様性を尊重し、一人一人を大切にす
る学校
○安全で安心して学べる学校
○家庭や地域・関係機関と連携し、信頼される学校

教育目標 健やかな身体と豊かな心を持ち、人とかかわりながら、自分らしく生き生きと、社会の中で生活できる子どもを育成する。

<目指す子ども像>
○「なんだろう」「なぜだろう」と興味をもって学びに向かう子(主体的な学び)
○経験や体験した学びを生活に活かせる子(思考判断表現力)
○えがく未来の自分に自信をもって学び続ける子(共生社会、深い学び)
○つながりあって学びを広げ深める子(学びの連続性、対話的な学び)

教育方針

- ① 多様な教育的ニーズに対応した教育活動を行い、確かな学びと生きる力を育む。
- ② 小学部から高等部までの12年間の継続性を確保し、学校全体で子どもの育ちを支える。
- ③ 様々な体験を通して、自己理解や自己受容をすすめて、自己基盤づくりを行う。
- ④ 関係機関と連携しながら、交流活動や進路指導・相談機能を充実させ、地域の特別支援教育を推進する。

学校業務改善のための取組

- ・教育のDX化を図り、業務の効率化、勤務時間の有効活用を意識する。
- ・ワークライフバランスや職場環境改善に自分事として取り組む。

人権教育の推進

- ・自己肯定感を高め、自分や他者のいのちを大切にす
る心を育てる。
- ・互いに助け合い、協力する活動を推進する

<キーワード>
多様性を尊重し、支え、つながる

重点目標				
<p>教育課程・学習支援</p> <p>学びをつなげる</p> <p>(図書研究部 教務部)</p> <p>・子どもたちに応じた最適なねらいと支援、評価のつながりを丁寧に見取り、授業に反映させながら、授業づくりを行う。</p> <p>丁寧な見取りと単元等シート作成シートを授業づくりに位置付ける</p>	<p>生徒支援</p> <p>学びをつなげる</p> <p>(指導部 保健部)</p> <p>・子どもたちが活動を通してつながりを感じることができるよう に支援する。</p> <p>・子どもたちが各学部の活動等において明るく元気に活動し、日ごろの学習の成果を発表できるように支援する。</p>	<p>進路支援・生活支援</p> <p>未来へつなげる</p> <p>(進路指導部 渉外部)</p> <p>・学級懇談や進路希望調査から、生徒保護者が必要としている情報を探り、関係機関と連携しながら、進路選択や生活支援に必要な情報を継続的に収集・発信する。</p> <p>広く情報提供 ニーズに応じた情報提供</p>	<p>地域支援</p> <p>地域とつながる</p> <p>(教育相談部 学部)</p> <p>・交流および共同学習や地域との連携を生かした諸活動が有意義なものになるように、クラスやグループ、学部等で目標設定や振り返りを行いながら、計画的、組織的に活動を実施する。</p>	<p>組織運営</p> <p>・語りと傾聴を通して、主体的に学び合ったり、業務を遂行したりする組織づくりを推進する。</p> <p>同僚性の構築 主体的な学び合い</p>

具体的な取組				
<p>・単元(授業)シートや年間指導計画、子どもの記録シート、個別の教育支援計画などを、授業づくりのサイクル(PDCA)の中でより効果的に活用できるように発信していく。</p> <p>・子どもの見取りを適切に行うことができるよう、専門性向上のための研修会や情報の発信を行う。</p> <p>目標:子どもたちの充実した学びと教員の専門性の向上(80%以上)</p>	<p>・子どもたちがつながりを感じることができ るような活動の計画、運営を支援する。</p> <p>・各学部の活動等において子どもたちが明るく元気に活動し、日ごろの学習の成果を発表できるように練習計画及び活動場所の調整等を行う。</p> <p>目標:児童生徒が つながりを持つための支援の充実。(80%以上)</p>	<p>・進路説明会の開催や、進路相談、進路だより、情報集の発行を通じて、児童生徒、保護者、教職員に情報を提供する。</p> <p>・小、中、高等部それぞれで進路説明会を開き、生活・就労を支援する制度、進路学習の流れ、制度利用の手続きなど、各年代のニーズに沿った情報を提供する。</p> <p>・「何でも相談会」の再開に向け、内容を再検討するとともに、丹南地区自立支援協議会との共催を模索する。</p> <p>目標:進路選択や生活支援のための情報提供の充実。(70%以上)</p>	<p>・クラスやグループ、学部会等で事前、事後に話し合う機会を設け、目標を共通理解したり、双方の配慮点を確認したりするなどして、成果や課題を整理しながら活動の充実に努める。</p> <p>・交流活動が適切かつ効果的に行われるよう諸手続の見直しを行う。</p> <p>目標:交流および共同学習や地域との連携を生かした諸活動の充実。(80%以上)</p>	<p>・教職員一人一人が、互いを思いやり、働きやすさを意識した声かけを行って、健康に働ける職場づくりを行う。</p> <p>目標:心理的安全性を確保された環境で、意欲的に業務を遂行する。(80%以上)</p> <p>・学部や校務部を解いた小グループで話し合い、実践の振り返りや新たな気付きを得る機会を学期に1回設ける。</p> <p>目標:対話を通じて、主体的に学びを深める。(80%以上)</p>